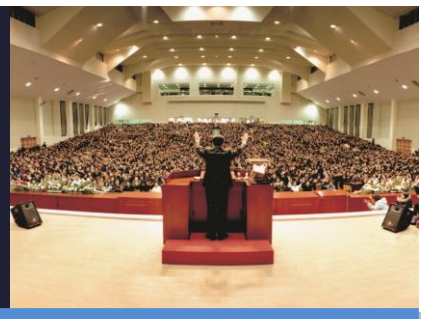
第 2018-18 号

恵みと真理のニュース



2018 年 5 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

ひたすら主のことに献身するように環境の扉を開いてくださり、主の中で真の幸せを享受するように導いてくださる神様の恵みに感謝を捧げます

私の家庭は代々に仏教を信じ偶像崇拝をしました。私が高校生の時、ある、勧士から伝道され家族皆がイエスキリストを受け入れ神様を信じる信仰生活を始めました。その後、両親は熱心に教会に通い案手執事と勧士になりました。私は1996年3月結婚してからソウルからアンヤンに引っ越しました。ありがたいことに新婚の家の家主が恵みと真理教会に通う区域長でした。“人間の心は自分の道を計画する。主が一歩一歩を備えてくださる。”（箴言16：9）
親を離れて暮らしながら新婚の初めはかろうじて日曜日だけ教会に行きましたが、続けて礼拝に参席すると御言葉の恵みと聖霊のお働きが望まれ信仰が成長しました。一番目の子を出産した後、足りなくて弱いですが、感謝して従順する心で与えてくださる区域長の職分を受けました。今、考えてみると神様の善き御心で私をまず恵みと真理教会に導いて尊い職分もくださいました。
親が通う教会が2013年WCCプサン総会を誘致するため重要な役割を担当しました。親はWCCの実態を良く知らなくて総会が開かれる前から熱心に祈っていました。私は親が正しく理解し分別して行うためその団体の問題と宗教多元主義、混合主義、宗教一致主義、容共主義など聖書に反する主張を求める目標などについて詳しく説明して関連した資料を渡しました。
それにも関わらず親は30年近く通っている教会で担任牧師が行う事なので仕方なく従いました。親が残念で私は超ヨンモク牧師の説教を聴くように切に願って勧めました。当会長の牧師の説教を聴いて悟った親はその後、様々な苦難を克服して家族を連れて私たちの教会ブチョン聖殿に出席するようになりました。実家の家族達は受けた恵みに感謝して各部署で熱心に奉仕しながら神様に栄光を捧げています。ハレルヤ！
私も今まで一人の力で担えられない大変な事があって人生に大きい苦難がありましたが、その時ことにもっと熱心に礼拝して伝道しながら聖霊様から慰められ新しい力を得て勝ち抜きました。私が主の事に全心全力をするため経済的な問題が一番大きい障害物でした。イエス様を信じない家の家族と隣人は私が主の事に献身するのを見て時間を無駄に使うと言われたり、共働きしなさいと言われて心がとても痛かったです。そうするうちに　旦那も大変な会社の事情で考えたより早く退職するようになりました。心の準備はしていましたが、いざ予想より早く会社から通告を受けると私は前が見えなかったです。“神様！私が変わりなく主の事だけ力を尽くすように助けてください。！神様に切に祈りました。教区長と区域長達も同じ心で祈ってくださいました。私を良く知っておられる神様、愛と能力が限りない神様が私と旦那が祈って一ヶ月ぶりに旦那が新しい職場に入って仕事をするように導いてくださいました。そして、新しい職務に適応するように助けてくださいました。伝道師が家に訪問してくださって“お前の主なる神はお前のただ中におられ／勇士であって勝利を与えられる。主はお前のゆえに喜び楽しみ／愛によってお前を新たにし／お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる。」”という御言葉で祝福してくださる時、涙を流しながら神様に感謝を捧げました。
訪問と伝道と教会の奉仕など主の事にいつも最優先して生活したら、どうやら子供たちにすまなかったです。子供たちを連れて行くことが出来なくて、仕方なく一人で行く日が多くなると隣人が心配する心で子供たちだけ置いといてそんなに外に行かないでね。子供たちに事故でも起こったらどうするとたくさん聞かれました。しかし、子供たちが事故やどんな病気で応急室に一回も行ったことがなく育ちました。問題を起こしたこともなかったです。神様が見守ってくださり、よく育てるように導きました。。また、二人の子供に知恵も与えてくださり、大学と高校で奨学生で勉強するようにしてくださいました。
広い家で多く区域員達が集まって共に区域礼拝を捧げる姿を描きながら神様に祈りました。すると、家を売買をするため不動産に話した後、次の日に奇跡的に売買されました。神様はそのように私が祈って応答を受ける楽しさも享受するようにしてくださり、相変わらす主の事に力を尽くすようにしてくださいました。足りない私にも首区域長と児童区域長、聖歌隊員、英語聖書学校の教師の尊くて責任ある職分と使命を与え、喜びと感謝で献身して担える力もくださる神様の恵みに感謝します。神様は伝道の実りも多く実られ区域セミナーで伝道特別賞を受ける喜びまでくださいました。“ わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。”アーメン
　私を神様の子供としてくださったことも感謝ますが、さらにこのように尊い職分まで下さって主に栄光を捧げることに感謝をどう表現するかわからないほどです。私はこの世で一番幸せな者です。私を見守って愛してくださる神様、イエスキリストを知らなくて信じないかわいそうな人々に熱心に福音を伝えるように全ての環境の扉を開いてくださる神様を賛美します。私の主よ。愛します。感謝します。全ての栄光を主に捧げます。

［信仰コラム］　親の恩と子の恭敬

”...「あなたの父と母とを敬え」。これが第一の戒めであって、次の約束がそれについている、「そうすれば、あなたは幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう」。”（エペソ人への手紙 6:1～3）

人が体験できる最も崇高な恵みと愛はその第一が神様の恵みと愛であり、第二が両親の恵みと愛です。人が感じて所有するようになる幸福の深さはこのような恵みと愛に対する体験の深さと比例します。このような恵みと愛を悟り、感謝する思いを積極的に表わすのは私達に許された神聖な義務であり特権であります。
第一に、両親の恵みと愛に対して調べてみます。
両親の恵みと愛とは無条件的なことであります。ダビデ王の生涯が記録された聖書を通じて子に対する親の愛に関する涙ぐましい記事を読むことができます。ダビデ王の子アブサロムが父親の王位を奪うために反乱を起してが、失敗して殺されました。アブサロムが死んだという消息を聞いたダビデ王は胸がつぶれるようで門の上の部屋に行って”わが子アブサロムよ。わが子、わが子アブサロムよ。ああ、わたしが代って死ねばよかったのに。アブサロム、わが子よ、わが子よ”と泣きました。これが親の心です。子は不孝して不良であっても子に向いた親の愛は変わられません。
両親の恵みと愛は子のために様々な犠牲を堪えらせて、子のために最善を尽くすようにします。その中でも母親の愛はより強烈だと言えます。優れた人物の背後には優れた母親がいます。アメリカが生んだ 19 世紀の偉大な伝道者 D.L.ムーディーは母親の葬式で”万が一、全ての人が私の母と同じ母親を持つことができればこの世には監獄が必要ではなく、またこの世の人々が全てこのような母親の養育を受けるなら私のような人になれないはずがないでしょう。”という話しをしました。両親の愛とその恵みはどの時代どの民族にも変わりがありません。両親の子に対する愛は人間のために神様が与えてくださった偉大な賜物であり、恵みです。
第二、子が両親を恭敬しなければならない理由を調べてみます。
一、人が親を恭敬することは人間の本性から湧き出ることです。二、両親恭敬の道理は神様が与えてくださった法道であり、命令です。神様が与えてくださった 10 の命令の中で人間関係の第一の命令は”あなたの親に恭敬しなさい”という御言葉です。三、聖書では親に不孝する子に対する呪いと刑罰に対して記録されています。レビ記 20 章 9 節に”だれでも父または母をのろう者は、必ず殺されなければならない。彼が父または母をのろったので、その血は彼に帰するであろう。”としました。四、両親恭敬には神様が与えてくださる福のある約束があります。”子たる者よ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことである。「あなたの父と母とを敬え」。これが第一の戒めであって、次の約束がそれについている、「そうすれば、あなたは幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう」。”としました。五、両親の愛と恵みに対して感謝して報うのは人の道理であります。六、自分を生んで養った両親であるので恭敬すべきです。ある訳で自分が生んだ子供ではなくても、生んだ子供以上に養育した両親はより恭敬を受けるべきでしょう。
第三、両親恭敬の適当な態度を調べてみましょう。
一、生活力のなり親を子は精一杯奉養すべきです。二、両親に言葉で、犠牲を通じて感謝の思いを積極的に表現すべきです。三、両親の言葉を傾聴して従うことで心を喜ばせるべきです。四、両親が神様に良く仕えるよう手伝ってあげるべきです。イエス様を信じない両親には救いを得るように全心全力で手伝ってあげなければなりません。イエス様を信じる両親には主に仕えることに積極に参加するよう手伝ってあげるべきです。生きている時に親孝行すべきです。
人間社会において最も根本的なことは神様との関係と両親との関係です。誰でも後悔なしに生きるのを願うなら、神様を敬って、両親を恭敬すべきです。人生のために限りない恵みと愛を施される神様を敬って仕え、また子のために熱い愛と恵みを注いでくださる両親を恭敬すべきです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

努力をやめなさいと努力しなさい

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書には、人が罪の赦しを受け救い得る方法が明らかにされています。そして救いを得た人が必ず行うことについて記録されています。これに関連の重要な単語の中の信仰という言葉と行ないという言葉があります。信仰と行いという言葉が持つ意味を正確に知ることが非常に重要です。信仰と行いについて、聖書の教えとは異なる知っていれば、通常の信仰生活をすることができなくなります。さらに救いを得られない可能性があります。今日は救いと信仰生活において、欠かせない信仰と行うことについて説明します

まず、救いを得るために何を行って救い得ようとする努力を止めなければなりません。**イエスが 道に 出て 行かれると， ひとりの 人が 走り 寄り， みまえにひざまずいて 尋ねた， 「よき 師よ， 永遠の 生命を 受けるために， 何をしたらよいでしょうか 」． イエス は 言われた， 「なぜわたしをよき 者と 言うのか． 神ひとりのほかによい 者はいない． いましめはあなたの 知っているとおりである． 『殺すな， 姦淫するな， 盗むな， 偽證を 立てるな． 欺き 取るな． 父と 母とを 敬え 』」． すると， 彼は 言った， 「先生， それらの 事はみな， 小さい 時から 守っております 」．イエス は 彼に 目をとめ， いつくしんで 言われた， 「あなたに 足りないことが 一つある． 歸って， 持っているものをみな 賣り 拂って， 貧しい 人に 施しなさい． そうすれば， 天に 寶を 持つようになろう． そして， わたしに 從ってきなさい 」**

金持ちの青年が自分の持った豊か財産を完全に売って貧しい人々に与えると果たして永遠の命を得ることになるのでしょうか？イエスはそのような意味で言われたことがありません。この金持ちの青年に戒めを守るということが何を意味するかを教えてもらおうとしたのです。その青年が戒めを守ったということは、その命令を自分なりに解釈して、その範囲の内で守ってきたことを認識して与えようとされます。たとえ自分の所有を完全に売って、貧しい者に与えるとしても、それに命令をみなのをなすではありません。他人のものを 貪欲すれば盗みしたものと同じで、他人を憎むと思うだけで、殺人したのと同じ犯罪行為とみなされることが律法です。すべての律法を全部守っても、一つだけ違反した場合、すべての律法を全部破ったこととされているのが律法です。したがって、律法に義とされる人はいません。イエスは、その豊かな青年が多くの富をすべて処分して、貧しい者に分け与えることを決してしないことをよく知っていました

金持ちの青年は、イエスの言葉を聞いて、その場で「私が、律法では、義とされることができないことを今知りました。私を助けてください。」と叫ばなければなりません。ところが、金持ちの青年は、「悲しい気配を表し離れ去った」「はなはだ心配して「イエスを離れ去ってしまいました。彼は永遠の命を得ることを人生の重大な課題として知って望んでいました、これ憧れたことは間違いありません。しかし、実際自分の富をすべて放棄しなければならないと考えてみましょう、永遠の命よりも富を選択してしまいました。

永遠の命は、すべてを放棄しでも得なければなら価値があるのです。しかし、実際には、このような所有をすべて投げ出すということはありません。永遠の命は、何よりも大切なことを知って、永遠の命とこのようなものの代わりとなる必要がある場合であれば、躊躇せずに永遠の命を選ぶことができなければならないということです

イエス様が金持ち役人に言われたことに救いの真理が明確に示されています。これを整理すると、次のとおりです。「救い得るために自分の行為によって救いを得ようとする努力を徹底的に放棄しなければなりません。神様が私たちに求めておられるのは、信仰だけです。その信仰と私たちの罪を贖いしようと十字架につけられ死なれ、復活したイエスだけ救い主として信じていることです。ローマ 3 章に記録されることを**「わたしたちは， こう 思う． 人が 義とされるのは， 律法の 行いによるのではなく， 信仰によるのである」（ ローマ人への手紙 3:28）**しました。救いのために人間の努力は何もありません。イエス・キリストの贖いの恵みを信じて、イエス・キリストだけが救い主であることを信じていること以外には違いないことがありません

次に、信仰生活をためには、努力しなければなりません。信仰によって救われた人は、信仰生活をよくするために努力しなければなりません。私たちが力を尽くすべきことの中の 5 つのことを見てみましょう。

第一に、伝道しなければなりません。

テモテへの第二の手紙 4 章 2 節に「 御言を 宣べ 傳えなさい． 時が 良くても 惡くても， それを 勵み， あくまでも 寛容な 心でよく 教えて， 責め， 戒め， 勸めなさい．」しました。伝道は滅亡の道に行く人を命の道導くことです。伝道は最初にするのが難しいがすればするほど、大胆になっていくつかの場合に、適切に行動する知恵が生じます。伝道は目標を設定し、期限を限定しなければなりません。伝道する対象者の名簿を作成し、その名前を呼んで、毎日祈りが必要です。そしていろいろの方法で近寄って、福音を伝えなければなりません。励みすべきことです

第二に、良いことに努めるべきです。

テトスへの手紙 2 章 14 節に記録されることを「この キリスト が， わたしたちのためにご自身をささげられたのは， わたしたちをすべての 不法からあがない 出して， 良いわざに熱心な 選びの 民を， ご 自身のものとして聖別するためにほかならない．」しました。イエスは贖いの死を死なれた 2 つの指摘しました。すべての不法から私たちをあがないしてきれいにして良いことに熱心する彼の民になるようにしようとしました

第三に、主の仕事に勤めるべきです。

コリント人への第一の手紙 15 章 58 節に「 だから， 愛する 兄弟たちよ． 堅く 立って 動かされず， いつも 全力を 注いで 主のわざに 勵みなさい． 主にあっては， あなたがたの 勞苦がむだになることはないと， あなたがたは 知っているからである」しました。聖徒たちに仕えることは、すべての 主の仕事 です。教会から受けた職分のすべてがに 主の仕事です。 主の仕事をすると妨害を受けます。悪魔がこれを嫌いして試験に入られて主の仕事を苦しそうに作って主の仕事を放棄するようにします。したがって、堅くたで揺れないでください。 主の仕事に手間するときまいたとおり刈り取るていただきます。

この世で生きる間、神様が植え通り刈り取るしますが、将来、キリストのさばきの座の前に立つとき賞賛を受けます。

生命の冠、金の冠、義の冠、自慢の冠、腐らない冠を与えています。 主の仕事に努めるとき、右手がしたことを左手が知らないようにしても、神がすべて知っておられるます。小子に冷水をあげたことも決してその報いを失わないと言われました。したがって、歳月を控えめて 主の仕事に努めるべきです

第四に、集めるのを努めるべきです。

ヘブル人への手紙 10 章 24 節と 25 節に「 愛と 善行とを 勵むように 互に 努め， ある人たちがいつもしているように， 集會をやめることはしないで 互に 勵まし， かの 日が近づいているのを 見て， ますます， そうしようではないか 」としました。私たちは、自分の信仰だけ取りまとめるものではなく、他の人に見なければなりません。愛と善行を奨励する必要があります。いくつかの言葉の励ましが促され、あるいは怠惰の信者を悟らせてくれます。礼拝と奉仕と聖徒の交わりのための集まりに熱心にあずかるように励みする必要があります。礼拝に一、二回抜け始めといつのまにか習慣になってしまいます。習慣的に固まらないようにお互い 励まなければならない。終末の時が近いほどの信者が集まりをなおざりにされている状況にこさらされることが予測された。したがって、互いに 励みしてさらに集めることに努めるべきです

第五に、祈りに努めるべきです。

ローマ人への手紙 12 章 12 節に「 望みをいだいて 喜び， 患難に 耐え， 常に 祈りなさい． 」しました。イエスの最後の晩餐の後、弟子たちを連れてオリブ山に行かれました。そして弟子たちに言うのを**「 いつもの 場所に着いてから， 彼らに 言われた， 「誘惑に陷らないように 祈りなさい 」（ ルカによる福音書 22:40）**しました。イエスは石を投げて届くほどの距離に行き一人でひざまずい**「父よ， みこころならば， どうぞ， この 杯をわたしから 取りのけてください． しかし， わたしの 思いではなく， みこころが 成るようにしてください 」**と祈りました

イエスの苦悩の中で、**「イエス は 苦しみもだえて， ますます 切に 祈られた． そして， その 汗が 血のしたたりのように 地に 落ちた．祈を 終えて 立ちあがり， 弟子たちのところへ 行かれると， 彼らが 悲しみのはて寢入っているのをごらんになって われた， 「なぜ 眠っているのか． 誘惑に 陷らないように， 起きて 祈っていなさい 」**としました。イエスがこのお話をしておられたときユダがイエスを逮捕しようと群れを連れてきました。群れがイエスを逮捕したら、弟子たちはすべて逃げました。祈りに力せずひたすら寝ていたので、危機を大胆に対処しないことにならました。祈りに努めるべきです。励みします

皆さんは救いを得るために、自分の功労と努力を加えうとする考えは、徹底に捨てて、私たちの罪をあがないしたイエス・キリストだけを信じてください。そして信仰生活の発展のために努力しなさい。伝導に励んで良いことに努め、主の仕事に努めて集まるの努め祈りに励むための信仰生活がますます向上して豊かになることを願いします.